

市民の願いに応える 摂津のまちづくりへ 矛盾する 第5次行革は見直しを!

摂津市のこれからのまちづくりの目標や方向性などを定める総合計画基本計画改定版、人口ビジョン、摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(摂津版総合戦略)が3月にまとまりました。

摂津市がこれらの計画を策定するにあたり実施した「摂津市のまちづくりに関する市民意

識調査(2015.11)」で示された市民意識(表1、表2、表3)と、市民サービス削減、市民負担増などを進める第5次行政改革メニューとの間には大きな矛盾があります。

自らが策定したまちづくりの目標達成のために、市民意識調査の結果を受け止め、第5次行政改革の見直し・検討が必要です。

「協働」の理念は生かされているか?

情報の共有化、市民参画をあらゆる政策形成過程に!



総合計画基本計画改定版に対する市民意見募集(パブリックコメント)に応募はありませんでした。なぜでしょうか!

5年前の本計画策定時にはまちづくり市民会議、各種団体へのアンケート、地区懇談会など市民参加で取り組まれましたが、今回はほとんどありません。

行政と市民が情報を共有し、お互いの役割を果たしつつ対等の立場でまちづくりに関わるという「協働」は、市政運営の柱とされていますが、その理念が生かされていないのでしょうか?

表1 将来どのようなまちになって欲しいかトップ3

- 高齢者や障害者の方々も安心して生活できるまち 30.1%
- 子どもの心と身体がバランス良く育っていくまち 18.9%
- 市内・市外どこへ行くにも便利なまち 14.1%

表2 今後のまちづくりでどの分野に力を入れるべきかトップ5

- 健康・医療 88.8%
- 住環境 87.6%
- 子育て支援 83.8%
- 高齢者福祉 82.8%
- 都市基盤の整備 82.5%

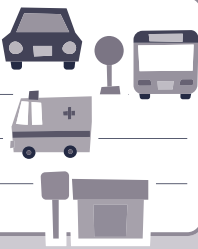


表3 総合計画に掲げている50施策の中で、市民の期待度が高い一方、満足度が低い施策(市民の願いと実績とのギャップの大きい施策)

施策	期待度 (5点満点)	満足度 (5点満点)
●道路が安全で移動しやすいまちにします	3.81	2.67
●安心して医療が受けられるまちにします	4.05	2.97
●安心して介護を受けながら生活できるまちにします	3.92	2.92



私も保育所落ちた! 摂津市で97名!!

公立保育所を増やして行政の責任を果たせ!

待機児童問題は摂津市でも深刻です。2016年度4月1日時点で、希望する保育所に入れなかった児童は97名です。摂津市は、公立保育所民営化方針のもと、市立正雀保育所を今年4月から民営化しようとしていましたが、受け入れ事業者が2月に突然辞退し、民営化が最長1年先送りとなり混乱が生じました。さらに昨年、市内の民間事業所内保育所が認可後1年も経たないうちに閉鎖されました。これでは安心して保育所に子どもを

預けることはできません。

今後、民間保育事業者の新規参入が予想されるもと、保育・待機児童解消を民間頼みにするのではなく、国・自治体が責任を果たす必要があります。

日本共産党は、これまで国が廃止した公立保育所整備に対する補助制度の復活などを盛り込んだ「保育緊急提言」を国に求めています。



民営化が1年先送りになった市立正雀保育所

日本共産党の保育緊急提言

1 30万人分(約3000カ所)の認可保育所を緊急に増設する

待機児童問題は、認可保育所の増設で解決することを原則として確立する

2 賃上げと保育士配置基準の引き上げ

二つの方向で待遇改善のために国の基準を引き上げる



市長の反社会的勢力との関係!?

事実を明らかにするよう市長に要請

昨年12月議会、今年3月議会の一般質問などにおいて、市長の元秘書だった市議(おおさか維新)が、自らも関わってきた問題として、過去の市長の暴力団・統一教会など反社会的勢力との関係について言及しました。

もし、これが事実であるなら、過去のことはいい、市長もこの市議も公職に就くものとしての道義的責任が問われる大問題です。

日本共産党は、市長に対し、これまでの反社会的勢力との関係について、現在の状況も含めて明らかにするよう求めています。